【第 2 期 第 2 回 浅川流域連絡会】

議 事 録

平成 22 年 8 月 19 日

東京都 南多摩西部建設事務所

【第2期 第2回 浅川流域連絡会】議事録

開催日時 : 平成22年8月19日(金) 18時30分 ~ 20時20分

会 場 : 東京都 南多摩西部建設事務所 4階会議室

1 開 会

事務局

それでは『第2期 第2回浅川流域連絡会』を開催いたします。

本日はお忙しい中、また雨の降っている中、着任して頂きまして誠に有り難うございます。事務局から何点か、資料の確認とかですね、そういった形で考えます。配布資料はいっぱいありまして、お手元のを見ていただきたいんですけども、まずレジュメ、「会議次第」。これが本日の議題になっております。一枚めくると今後のスケジュールということで、後ほど説明致しますけれど、東京都の流域連絡会一覧表というのが有ります。これが三枚目になります。続きまして、南西建の「平成22年度主な工事予定箇所」というのがございます。

あと、京浜さん（国土交通省京浜河川事務所）の分が、私の手元にはないんですけど、こういうA4のが五枚ございます。続きまして、「水循環計画」、八王子市さん。これも後ほどご説明していただきます。

事務局

あと、A3 三枚ですね。

事務局

あと、委員の方のご要望とかですね、第1回の流連でご要望がございましたのでいくつか資料を用意してございます。まず、「環境に配慮した川づくり」、続きまして「東京の河川事業」。

事務局

これ（資料：東京の河川事業）開きまして、東京都全体の川の状況等が書かれております。

事務局

続いて京浜さんの「多摩川水系河川整備計画のポイント」というパンフレットがございます。これは第1期で皆さんにお配りしているんですけど、第2期で新しい方がいらっ

しゃいますので、資料としてお配りしています。続きまして、あと京浜さんの方から、「第35回 多摩川流域セミナー」。委員の方から、浅川フォーラムさんの方からですね、「水質マップ」、それと団体委員の方から二枚出ている、大きい方は流域の俯瞰図です。

事務局

あと、小さい方がいわゆる一級河川の勾配ですね。A4縦で上に数字表、下に勾配。あと、最後に前回の委員会の議事録、いろいろ皆様に頂いたやつ、もう一度作り直しております。改めて呼んで頂いて、気が付いたことが有れば、ご連絡いただきたい。

事務局

不足の方は、いらっしゃいませんか。いっぱい申し訳ないんですけど、資料の確認は以上です。

本日の出席者につきましては、都民委員の方が14名いらっしゃるんですがその内8名、団体委員の方は7名中の7名、行政委員と座長が8分の8ということで、総数29人の内、今お一人いらっしゃいましたので、24人の参加になっております。また、流連につきましては毎回議事録を作成させていただきますので、その関係で冒頭から録音をさせて頂いております。あらかじめご理解頂きたいと思います。なお、終了時間ですけど、毎回のことですけど8時を目標にしたいと思います。御協力よろしくお願い致します。

以上で事務局の方からの説明を終わりますので、議事進行を座長の方によろしくお願い致します。

2 議 事

(1)平成22年度工事予定箇所の概要について

座長

今8月ですけど、今日はちょっと涼しくて、でも議事内容はまた盛り沢山なので、よろしくお願い致します。早速ですけども、議事次第に則って行いたいと思います。1番、平成22年度工事予定箇所の概要についてということで、まずは、東京都さんの方から。

事務局

はい。

座長

じゃ、お願いします。

事務局

平成 22 年度、東京都の南多摩建設事務所の主な河川工事予定についてご説明申し上げます。申し遅れましたけども、私、河川設計係長の者です。よろしくお願い致します。説明にあたって、座って説明させていただきますのでよろしくどうぞ。

それでは、資料としましては、こちらの方の A3 です。こちらの、南西建の管内図になります。こちらの管内図には平成 22 年度の主な河川工事の箇所を明記しております。その中で、平成 22 年度の工事予定数は、全部で 6 件ございます。河川整備工事は、谷地川が、丁度図面で行きすと上の方の①番から③番までの 3 件です。それとあと、河川整備としましては、下の④番、「湯殿川整備工事（その 3 5）」ですね。河川整備工事は全部で 4 件ございます。谷地川 3 件、湯殿川 1 件で、計 4 件。それとあと、河川防災工事と言う事で、山入川が⑤番。図面の左上になります。それが 1 箇所。それとあと、案内川、⑥番、これが 1 箇所になります。合計、河川防災工事が 2 件予定しております。

河川工事整備工事は、1 時間の 50mm の降雨に対応できる護岸の整備を、計画的に行っております。用地を取得しながら護岸の拡幅工事、川幅を広めて進めております。谷地川の計画は、事業中の城山下橋から上流落合橋の区間 2200m、この図面で行きますと一番上です。城山下橋から落合橋区間 2200m、これを計画的に整備致します。基本的には下流から整備するという事で考えております。整備期間は、平成 22 年度から平成 27 年度を予定しております。一方下の④番の湯殿川ですけれど、こちらの整備計画は現在事業中の西明神橋から上流湯島橋、それから湯島橋からは町田街道になりますけども、この区間 570m を下流から整備いたします。整備期間と致しましては、平成 22 年度から平成 25 年度を予定しております。

次に河川防災工事に付きましては、護岸の老朽化による崩壊及び流水による洗掘等の原因によって、災害が発生するのを未然に防止するための工事でございます。河川整備工事に付きましては、私、河川設計係が担当しております。河川防災工事に付きましては、後でご説明いたしますけれども、維持担当係が説明担当しております。

それでは、最初に谷地川の 3 件についてご説明致します。1 枚図面をめくっていただきまして、A4 の横になりますけども、着色をした部分が谷地川になります。右側が下流になります。ちょうど谷地川の整備工事（その 4 4）が赤の印したところ。ちょうど谷野街道と谷地川の交差しているこの橋の架け替えがございます。この場所につきましては、多摩川の合流点から上流約 6.5km に位置します。谷地川の中流域にあたります。それとあと、この着色した区分けなんですけども、黒い部分が既に護岸が完了している所でございます。赤が今年度予定、緑が 23 年度以降整備を進める場所でございます。この場所は、八王子市丹木三丁目地内で工事を行っております。谷地川の整備工事（その 4 4）は、昨年度継続工

事で、既に工事中の件でございます。来年の23年の3月迄の工事を予定しています。土木工事は、内容について説明いたしますけれども、城山下橋の掛け替え工事が1橋、橋の下の護岸が14.9m 施工いたします。こちらの図面の下の方に標準断面図ということで書いておりますけれども、川幅が現況が10mのところを14.5mに広げると、あと現況の河床を約1m掘り下げる。川の断面を広げて洪水に対する流下能力の向上を図る、ということで計画しております。一方、新橋架け替え工事につきましては、道路の拡幅事業も行います。橋梁につきましては、現在有効幅員が9mでございますけれども、完成後は12mに拡幅して歩道と車道が広くなり、道路交通の安全を図ります。右側を見ていただければ分かるように、整備事例としまして、城山下橋の下流、明王下橋、これは八王子さんの管理なんですけれども、こちらの橋がイメージとして載せています。この上のが現在の上流から城山下橋を望んだところなんです。ちなみにこの都市計画線の幅員が、この図面で行きますと左上の勝手神社橋というところの下に都市計画線河川幅員22.5m、これが計画線の幅員となります。22m50のうち両側に川沿いに管理通路が4mずつ、それとあと流水が流れるのが14.5mで、全部で22.5mあります。この計画線が現況河川と重複している部分の所、接している部分ということで見ていただく様に、かなり計画線の幅員22.5mよりも広く取れる場所がございます。この広く用地が確保できた場所につきましては、緩傾斜護岸という事で水に親しめる護岸を整備しております。ちなみにここは、現況が1秒間に50m³流すんですけれども、計画的には100m³、約、倍の流量が流れるという形になります。

引き続きまして、次のページをめくって頂きまして、②の谷地川整備工事（その26）ということでご説明いたします。こちらの図面で行きますと右側が下流です。先ほど説明した城山下橋からさらに上流に1.6kmの位置になります。場所としましては、八王子市宮下地内になります。この箇所は都市計画線と現況河川との間に民地がございまして、それを、土地所有者の御協力によって用地を取得することが出来ましたので、用地が広がったということで、親水施設を計画しています。図面の真ん中の（その26）標準断面図、左側が現況河川、今流れている場所です。計画河川が右側になります。計画河川の右側に護岸の施工済みと書いてありますけれども、右岸側が、平成19年度に既に完成しております。この地区につきましては、平成19年度からやっていますが、引き続き今年度の赤い部分、この断面図で行きますと赤い部分ですね、緩傾斜護岸、これを今年度、片側護岸112mを施工する予定でございます。現況河川につきましては、計画では、残す方向で今考えております。現況河川の整備、それと水田がありまして、その取水方法について地元の町会とか水利権利用者、八王子市さん等と現在調整を図りながら進めております。今回の工事では、赤い部分の緩傾斜護岸の工事をするという事です。

次に、更にその上流の「谷地川整備工事（その27）」、③番になります。こちらは（その26）、前の年と同じようにこれから土地所有者と交渉するんですけれども、現況河川と新川の間が民地なので、その用地を取得して親水施設を計画しております。工事内容につきましては、護岸工の両岸を90m 工事いたします。断面図で見ますと、一番下の（その2

7) の標準断面図がございますけど、こちらの断面図を見て頂きますと、左側の滝山街道側になりますけども、左側に管理通路が4mでして、あと新しい護岸が自然石の護岸を考えています。一方反対側の対岸は、緩傾斜護岸を計画しています。緩傾斜護岸の箇所は、ちょうど現況河川の所で、この現況河川につきましては、埋め立てるという予定をしております。右側の写真がございます。これは写真の上下がありますけど、下の方が整備事例としまして、谷地川整備工事(その26)の一部護岸が出来てはいますが、自然石で出来ているということで、このような自然石を使って護岸を整備して行くということです。それとあと、上の方は緩傾斜護岸と言う事で事例を載せています、参考にしてください。

次のページ、さらにめくって頂きまして、湯殿側の予定をご説明致します。湯殿川につきましては、1件整備工事を致します。湯殿川整備工事(その35)でございます。図の真ん中が、赤い部分が施工場所になります。施工住所としましては、八王子市の館町地内になります。左側が下流、黒い部分が完成したところです。赤い部分が今年度、上流側が、右側の方の緑の線が23年度以降予定している所でございます。この場所は、浅川の支流ですので、浅川との合流点から上流8kmに位置しています。湯殿川の上流域にあたります。工事内容は、護岸の両岸100mを施工いたします。この場所は、図面を見て頂く様に、東京医科歯科大学八王子医療センターと言う事でありまして、こちらの方は、山になっているんです。下の方は、住宅街ということで、ちょうど山の下の方に現在の湯殿川が流れている。計画河川の位置が、山を沿っていくような形になりますので、計画では標準断面図の右側が、かなり自然林が残っておりますけれども、多い所の自然林の辺りを当初計画では、山を削って、山の斜面を造地しながら工事をやると、かなり大変な工事になるという事で、計画の見直しをしまして、位置的なものを見直すと言う事で、それにあたっては用地を確保しなければ行けないと言う事で、計画河川の位置を、山側にあるやつを住宅側に寄せると言う事で、下の断面図でいきますと、自然林の所を流れるやつを住宅側に寄せると言う事で、自然林を保存すると言う事で考えました。この用地を取得する事につきましては、土地所有者のご理解を得て、当初、河川幅員が18mなんですけれども、かなり広く取得させて頂きまして、計画が可能になったと言う事で、下の断面図のような形で整備を計画しております。一方、この場所につきましては、ホタルが生息していると言う事で、整備にあたりましては、ホタルの生息に配慮した河川整備を考えております。具体的に配慮した点は、3点ございます。1点目は、先ほど言った自然林の保全です。ホタルの成虫の休憩場所、またはカワニナ、ちょうどゲンジボタルなんですけども、餌となるカワニナ等の生物が、自生できるように自然林を残しておくと言う事です。2点目は、この標準断面図を見て頂く様に、右側の自然石護岸の前に自然石・素石を入れて、なおかつ覆土すると言った事で、蛹に成るために上陸するホタルの、移動をし易くしたと言う事です。あと、苔とかが着生するように、景観づくりをすると言う事。他に、ホタルの産卵場所として確保しておくと言う事で、自然石の護岸の前に素石を並べて、ホタルが棲みやすくすると言う事を考えました。最後の3点目は、ホタルの幼虫やカワニナの好む多様な流れにしたと言う事です。

川自身が、自然に蛇行するようにして、濬筋を素掘りしたと言う事です。ホタルにつきましては、河床が安定しているところが良いと言う事で聞いておりますので、このように素掘りにしたと言う事です。以上です。それとこう言った事で、ホタルの観測事業を継続したと言う事です。その付近の整理につきましては、来年度引き続き工事を行なうと言う事です。

河川整備につきましては、説明は、以上です。

事務局

続けてよろしいですか？

事務局

それでは、河川防災工事について説明したいと思います。まず、防災工事を説明する前に、**はじめて**の方もいらっしゃるので、南西建の管理河川についての概要を説明したいと思います。

南西建の管理河川は 18 河川、先ほど委員の方から、この A4 の、「八王子・日野流域の一級河川」と言う、配って頂いたところの 17 河川有ります。一部秋川と言う河川が、実は八王子に接していますので一つ足りてない状況ですが、南西建としては、秋川を含めて 18 河川、約 140km を管理しています。その内、先ほど 50mm 改修整備の方を説明しました通常河川の整備が 11 河川有りまして、その 50mm の改修整備を行っているのが 60km の計画があります。その内未整備が 20km 有りまして、計画のない川とまだ未整備の所の 20km、足して 80km が、手つかずや、30 年代、40 年代の護岸工事をした護岸が、そのまま残っていると言う様な状況です。維持係は、そのような河川の機能を良好に維持するためと、そのために河岸及び護岸の補修とか補強、根固め工事等を行っております。あと、河川敷の草刈りとか、河道内に自生した樹木の撤去とか、清掃及び浚渫等の作業を維持係の方で行っております。ご存知の通り八王子の方は、山間部や、丘陵地から平坦地まで流れる高低差のある川でありますので、非常に河床勾配が急でありまして、河床洗掘や河岸崩壊、流木や土砂堆積による河積阻害等、非常に課題が多く見られます。そういったところで、防災工事というのはそういった危険性のある箇所を事前に調査を行いまして、そのうち予算要求して、通ったところから工事が出来るといった状況であります。

今年度予定しておりますのが、先ほど説明しました A3 の紙の⑤番目と⑥番目にあります、山入川防災工事と案内川防災工事。これも図面の左側にあるように山間部の方と、比較的により、河床勾配の急峻な所が防災工事の予定となっております。そういったところで、危険度の優先順位の高い、今回は、この 2 箇所が工事の予定となっております。この⑤番目の工事の方に説明にいかさせて貰います。

ちょっとめくって頂いて、「⑤山入川防災工事（松木橋～美山橋）予定箇所」と有りますが、この部分なんですけど、平面図を見て頂いても分かる通り、けっこう蛇行している箇所

であります。この平面図でまず、黒く塗られている箇所は、昨年度及び一昨年度工事した箇所であります。ちょっと水色で残っている部分については、今後の整備予定の箇所です。今年度、平成22年度はこの赤い箇所、松木橋～美山橋のちょうど落差工、今右下に写真があるんですけど、この落差工まで工事する予定です。当該箇所は、やはり川の蛇行が著しくて、水衝部になっている所に左写真のように水当たりになりまして、護岸基礎が洗掘されている、浮き上がっているというような状況で、背面の家屋等も洪水があると危険性があるという状況で、今回この防災工事を行う状況になります。それに併せて、先ほど最上流、此処の上流にある落差工も、この写真の通りに老朽化して壊れておりますので、落差工の改良も併せて行うと言うのがこの防災工事の予定です。

続きまして一枚めくって頂いて、今度は案内川の方なんですけど、これは場所的には、平面図の右の方に計画道路の線が入っているんですけど、これは八王子南ジャンクションの予定箇所からちょっと大垂水峠の方へ行っただけです。ここについては、写真の通りに、平成20年8月末豪雨の時に護岸が崩壊しております。こういったところで、当然これも図面を見て頂いても分かる通り、左岸側が水衝部になっておりまして、ちょうどこの護岸が被災してしまったと言うところでもありますので、今回ここについても護岸工事を予定しております。あと、右岸側については、自然河岸となっておったんですけども、そこもちょっと崩壊していたので調査したところ、実は隠し護岸、タイヤが積まれている様な状況であります。ということで、この写真にタイヤが1個写っているんですけど、右岸側が実は、中身はタイヤ護岸なんです。そういったところで言うと、護岸としての機能は当然果たせませんので、このタイヤ積み護岸を撤去して、正規の護岸にすると言う様な予定でございます。

防災工事については、工事内容が実は、まだ工事範囲しか決まってないような状況です。というのも、被災状況とかその時の状況に応じて変わりますので、その年度に実は、測量をやって、調査をやって、設計をやって更に工事までやるという様な、非常にタイトなスケジュールの中で行っています。現在、測量と調査中でありまして、これから設計を行って、護岸構造とかを決めて行くと言う様な状況であります。当然、設計にあたっては、先ほど説明した山入川も案内川も、河川の源流点にあたりますので、充分自然環境が良好な所でもありますので、その様なことを勘案した上で工事を行っていきたいと言うふうに思っています。以上が、防災工事についての説明であります。

座長

はい。どうでしょうか？東京都さんの段階で、ご質疑、確認頂きましようか？京浜さんの方、聞いた方が良いかな？まず、東京都さんので行きますか？じゃあ、今ご説明を受けた所で、確認、ご質問頂ければと思いますけども。挙手をお願い致します。はい、団体委員さん。

団体委員

かなり危ないところがいっぱい有るそうなんですけれども、今日も美山の方に行っている人たち、その人達に話を聞いたら、美山のあそこの水も流れていないと言う話なんです。よく瀬切れが起きている川でもあるんですけども、この前、山を見に行った時も、上流部から水が無くなってきている。こんな現象がある、でもそれがどういうところから来ているのか心配でした。山が乾いている、という事は周りに住んでいて魚を飼っている、魚を、例えば川の中で飼っているというか、裏の山から水を引いてきて飼っていらっしやるとか、色々いらっしやいますけども、その人達の話聞いても、沢が枯れてきているという話をかなり聞いているんですけども、それが何故だかと言うところでちょっと分からないんですけども。工事の方、水が無くなってきているという話。

座長

と言う、まず水が少ない、無くなっている、表流水が見えないと言うところなんですけどね。一般的にどうなんですかね？

事務局

私も、この写真を見て頂いても分かる通り、行くと、水が、この山入川は、瀬切れを起こして、無い状況なんです。これも自然現象だと言われてしまえば、そのままにはなってしまうんですけど、正直、何らか対策と言われれば出来ない。美山より上流は、比較的勾配がきつくて、河床の土質が土丹的な物もありますので、その上流は水が有るんですけど、この礫層の部分は、水が下に伏流しているんですね。それが、過去からずっとこの川の特性的なのか、と言いながらもやはり河川としては、水が流れていないと言うのは、河川景観上のダメージがあると思いますので、正直この調査等も含めて、過去の状況とかを勘案して、この防災工事は、正直、抜本的な対策というのは出来ないんですけど、そう行ったような状況を調べたいなど、工事とは別に思っております。

座長

調べて行こうと？

団体委員さんが先に手を挙げていらっしやるので、団体委員さんどうぞ。

団体委員

この左側の写真のように、水がないのに護岸が壊れているのはなんでかなと？だから大雨の時だけすごい勢いで流れちゃうと言う事なのかなと言うのと、あと、こちらの落差工なんですけれども、落差工も整備されると思うんですが、東京都さんでは、魚道の整備というのは、どのように予定されているんでしょうか？

事務局

そうですね、先ほどの予想通り、洪水の時だけ、わーっと水が出るような状況がと言うのは、周辺住民の方からもそういう声も聞きます。普段は全然もう、瀬切れ現象になっています。この夏も、先週も行ったんですけど、水が無いと言う状況です。落差工の改良も実際、壊れていますので行うんですけど、それに併せて魚道の整備をと言う話があったんですけど、普段水が無いと魚道も造る必要が有るのかと、ただ、こういう段差の状況じゃなくてスロープ式とかにしたりして、水が有れば、スロープであれば魚も上っていけるとか、そういう風な工夫は考えています。魚道という程の大規模なものではないけれど、魚の上れるような対策というのは、考えています。

座長

はい。じゃ、都民委員さん。

都民委員

今の、落差工で、水が無い原因は、さっき伏流水になっていると仰ったんですけど、そう言うことであれば何故伏流水になっちゃうのか？というのは、ひとつ素人の疑問ですけど、こういう落差工みたいな流れを落そうとするから伏流水になってしまうんじゃないかというふうな疑問を持つ訳なんですけれど、どうでしょうか？

事務局

逆に、落差工より上流には水が溜まっていたりするような状況なんです。

都民委員

でも、伏流水になっちゃうんでしょう？

事務局

徐々に減っていったのは確かなんです、山入川を見ると。正直、私どもが現地を見ると、抜本的な問題としては、礫層河川と言う事ですので浸透しやすい、と言う状況は確かです。

都民委員

こういう落差工の所を何ヶ所も見ているんですけど、やっぱり水が無いところが多いんですよね。上流に行けばね。だから、何か落差工と関係があるのかなと。水の溜まっているところも勿論有ります。だけど、やっぱり落差工が無ければ、もっとスムーズに、伏流水にならないで流れていくんじゃないかなと。まあ、伏流水は伏流水で、またどこかにいずれ出てくるんで、それはそれでまた、良い面も有るんですけどね。だけど、川だけ

で見てこういう工事というのは、伏流水にマイナスの影響を与えているんじゃないだろうかという風な感じを、いろいろな場所を見て感じるんですけど、どうでしょうか？

事務局

実際、今回行方防災工事は、護岸の補強とか、そう言ったものをメインと、ついでに落差工が壊れていまして、この落差工というのが洪水の時に、これが無いと非常に河床勾配が急になりまして、流速がもっと増される状況になる。そうすると護岸に衝突して、また護岸が被災しやすいと言うような状況で、非常に洪水の時に重要なものです。

都民委員

だけど、その前に何故壊れるような工事にしたのかと。無駄な工事。

事務局

いや、無駄というか。これが壊れたのは、多分、昭和50年代に造られた落差工ですので、それからや30年経つとやはり、コンクリート構造物といえども壊れて来ちゃうんですね。そう言ったところを順次更新していくと言うのが必要ですので。

都民委員

そういった所が何ヶ所も有るんですね？

事務局

有りますね。特にこの南西建管内は、そういうのが多いです。

座長

はい、団体委員さん。

団体委員

谷地川整備工事の構造図なんですけど、一番下の左の自然石護岸となっているんですけど、その上に1.5m位の高さの現場打ちの直壁の擁壁が来るんですね。玉石護岸はひとつは景観が良くなるように考えて使っていると思うんですけど、上部に1.5m直壁のコンクリートを打つとおかしいんでね、このままずっと玉石で上げて、五分勾配ですから75cm管理道路が少なくなったら、反対側に、右側に余裕が有るんですから右側に少し振るとか、そういうことが出来ないのか。やっぱり、景観上非常におかしいという点と、それからもう一つ、先ほどホテルの件で、三つ工夫したという話が有りました。一番で、自然林の保全是、ホテルの止まり木と言うのですか。それからカワニナの生息環境と言う事。自然林の保全が、なんでカワニナの生息に良いのか、その辺が分からなかったんで、その二点です。

事務局

まず一点目は、図面で見ますと3ページ目になりますか。3ページ目の一番下の「③谷地川整備工事（その27）」の上流断面図です。左側がこういう階段みたいな形になっています。これはちょうど公私境と言うんですか、境界が滝山街道側のところが公私境になります。今回若松橋という橋が更に上流にございますけれども、その橋の高さに合わせて造つてあると言う事で、この様な高さになると言う事です。それと後、自然石をもっと上へ延ばして、この上の台形の分をもっと自然石でやって下さいと言う話なんですけれども、境界が決まっていますので、管理通路4m取って、そこから護岸を造るという事で、今、考えていますので、両脇の自然石を上げると、この4m幅員が取れなくなると、それと後、この備壁を上げると、先ほど言った4mを確保できないと言う話になります。よろしいですか？

団体委員

それを前に出せば、反対側に自然護岸の所が沢山空いているんですから、75cm前に出せば、4m取れるんじゃないかと言う事です。

事務局

前の方にですか？一応、若松橋の橋の関係がございまして、これは直線で持つていくと言う事で利用していただいている方々には、ご理解していただいている。まあ、前に持つてくると、橋の所が固定していますので、護岸の擦り付けが難しくなるという事で、直線で考えております。

座長

段が出来るのは、嫌うと。前に出すことでね。

事務局

ええ。出来ないことは無いんですが、護岸が張り出して、また、上流で橋の幅が決まっていますので、そこへまた戻るような形になりますので、流れとしてはあまり好ましくないと、そういう結論です。ここにつきましては、若松橋の下に民家がありますけれども、平成20年に8月末豪雨でこの若松橋の桁に水があたりまして、洪水になっていると、浸水しているという箇所、この若松橋の現況河川の蛇行している所を早く改修したいと、早く直線にして水を早く流したいと言う事で、ある程度水の流れを直線化したいと言う事で、今、考えています。

それともう一つ、湯殿川につきましては、ホテルの生息に配慮した河川整備の中で、自然林の保全が、ホテルに配慮した事になるのかと言う事ですが、カワニナですね。これは、自然林を保全したことによって、木漏れ日というか、そういったものでカワニナが生息できるように、自生できるようにと言う事で考えております。そういった木漏れ日を利用し

てカワニナ、それとあとコケ類、森、そういったものを着生できるような空間を、環境を造っていききたいと言う事で考えております。

座長

そういうお考えだと言う事ですね。

はい、団体委員さん。

団体委員

いつも感じるんですけど、こういう谷地川にしても、湯殿川にしましても、この近辺に住んでいらっしゃる方の意見が、どうして吸い上げられないのかと。遠いところの我々が論じるより、そこに実際に住んでいらっしゃる方の意見、この橋なんかをちょっと見ても、何か殺風景なんですね。これをもっとしゃれた橋に出来ないものかとか。そういうのが、そこに住んでいらっしゃる方に聞けば、いろんな意見が出てくると思います。これに色を塗るだけでも、明るさのある橋が出来たなとか。それから、先ほどの、最近水が少なくなったと。これはもう、全体に言われている。建築だとか道路だとか、いろんな面で遮断しちゃっているんですよ。水が下に入らない。舗装されていますから。昔は、土の中にね、夏は下から冷気が上がってきて、寒いときは下から暖かいのが、呼吸していたんです。それを全部塞いじゃっている訳ですね。それに増して、こういう工事でもコンクリートを使っていますから、水の流れがさあっと流れて、後はそこに無いという。その辺がやっぱり真剣に、もっとみんなで論じることが必要じゃないかなと。

座長

住民ヒアリングのお話しですか？

おやりになりながらの、調査・設計ですよ？ヒアリングをしながらの。

事務局

はい、やっております。湯殿川、谷地川につきましては、事前説明会をしております。

座長

ただまあ、色をどうするかとか、そう言うところまで行くか行かないはね、色々あるんでしょうけれど。

事務局

そうですね。橋の景観につきましては、色々意見がございます。あまり景観を良くしなくても良いんじゃない、と言う人もいますし、まあ、お金がかかるからそのまま良いんじゃないかと言う話もあるし、まちまちです。

座長

はい、あとよろしいですかね。

続きまして国土交通省京浜河川事務所さんお願いします。

行政委員

今日の資料ですけれども、A4 縦書きで、浅川河道整備についてという資料があります。工事の説明に入ります前に、最初ですので一つだけ、浅川の整備のやり方について簡単に説明させていただきます。先ほどもお話があったように、特に浅川というのは急勾配であると言う事です。従いまして、洪水時の流速が、かなり速くなるという事です。(資料) 右の方なんですけれども、高幡橋水位観測所での流量が出ています。浅川では 1100m³ の流量を流せる河道を目指して整備をしておるんですけれども、資料を見て頂きますと、57 年の 1000m³/s 近く、平成 20 年の 890m³ ということで、1100m³ の幅が出来ていないのにも関わらず、それに近い流量が流れているというのが現実で分かっております。下のケースですけれども、浅川橋水位観測所で、これは平成 20 年の洪水時なんですけど、平常時と較べて出水時については、堤防天端際まで水が来ていると言うような状況です。続いて左下の方ですけれども、昭和 49 年以降の被災実績と言う事で、被災というのは皆さんの家の浸水と言う事ではなくて、川の中で堤防が抉れたとか、壊れたとかそういうことなんですけれども、下の写真を見て分かる通り、荒井橋上流左岸、これが堤防浸食時のものです。この様な状況が昭和 49 年以降数十回起こっていると言うのが現実です。事例としまして、右側へ移りますけれども、水衝部対策をやっておりますけれども、大和田橋上流右岸で見ますと、平成 19 年の通常の河道は川の堤防の真ん中に流れているんですけれども、平成 20 年 8 月末出水で高水敷きが全て流れてしまった、河岸浸食と言う事になっておりまして、これを整備して元に戻したと言うような、これを水衝部対策と言う事でやっております。小さくて分からないかも知れませんが、整備事例としましては、高水護岸を張って、高水敷きを造成してあげて、その前に低水路をまわすと。この護岸は透水性になっております。

次のページ、裏ですけれども整備のやり方につきましても、業者からの発案になりますけれども、地域との連携と言う事で、この工事の趣旨、やり方をご理解頂くという風に、現場見学会や、小学校で画を描いて頂くとか、説明会にでもお話ししながら、理解して頂きながら進めて行くと言うことです。それと、(資料) 右側、小さくてわかりにくいかも知れないんですが、整備率、水衝部対策の整備率が 6 割程度となっております。黒い所が整備が済んだ所、緑の所がこれから整備をする所、赤は 21 年度、昨年度です。緑の所が 22 年度以降整備をする所です。と言うようなやり方で整備の仕方を決めております。

行政委員

では、本年度の工事を説明したいと思います。

まず最初に、(資料の)上の方ですけれど、全部で4箇所になります。(資料の)下の方で、最初に「H22 高幡護岸工事」というものを説明します。これは次のページを見て頂ければ、断面もありますので分かるかと思いますが、高幡橋の右岸下流側 220m、これを見て頂きますと、浅川が、直接高水敷きの堤防に、流水がぶつかっているのが分かるかと思いますが。これは、先程も言ったように出水時に対する堤防なんです。10m程ですけれども高水敷きを造成してあげて、更に前面に低水敷きと低水護岸を設置するという工事になります。

次が、(資料の)次のページで「H22 上田低水護岸工事」と言う事で、下の写真ですけれど高幡橋の上流の左岸側になります。これも浅川の流水が直接堤防にぶつかっている所で、黒く塗っているところは既に施工が終わっている所で、その上流側になります。これも約240mと言う事で、(資料の)次のページになりますけれど、高水敷きを造成してあげて、低水護岸を設置するという工事になります。下ですね、「H22 南平5丁目低水護岸工事」ということで。(資料の)次のページで、高幡橋の今度は堆砂場上流になりますけれども、低水護岸の工事になります。それと最後になりますが、もう一枚めくって頂いて、「H22 平山床固改築工事」というので、平山橋の下流に床固が有ります。これがかなり老朽化しております。それは、その次のページを見て頂きたいんですが、周辺の写真とか断面図が有ると思います。左上に周辺状況と言う事で、根固めがずっと敷いてあるのが分かると思いますが、実はこれ、本来斜めに床固が入れてあります。それが全部削れてしましまして、根固めが露出してまして、さらに離れる可能性があったんですけども、根固めを設置しております。老朽化と言う事もあって、コンクリートで固めてある床固なんですけれども、これを全部一回撤去しまして、根固ブロックだけ復旧します。

当然、魚道も設置します。右下の完成イメージの絵が有ると思うんですが、真ん中が水が沢山流れるような魚道になっていますけれども、その両サイドがブロックになっています。と言う事で、平山床固改修工事を行います。今回はとりあえず、魚道も含めて左岸側の工事を予定しております。南平と高幡は、右岸側の工事です。

この4箇所を予定しております。

座長

はい、じゃあ、よろしいですか。

じゃあ、ご質問、確認など。

都民委員

二点ばかり。この写真で行きますと、「H22 高幡護岸工事(浅川右岸 2.0k)」という、二枚目ですかね、その所に本年度護岸工をやるという事ですが、実はその上流側を、去年ですかね、工事を大々的にやりましたね。同時に河床部分を掘って工事をして、元に土を全

部戻して、被せて、何も見えないようになっているんですけども。その部分に、今年の春にもものすごく草が生えましてね。5月頃に、ものすごく綺麗な、薄紫色のレンゲ畑みたいになっていたんですけども。何かその非常に、人為的にタネでも蒔いたんじゃないかと思うような、一面に花が咲いて。なんという種類か分かりませんが、レンゲのような（花が咲いて）。それが5月頃の事なんですけども、7月の下旬に、その草を全部刈り取っているんですけども。そうとう広い範囲なんですけども、その図面で、高幡橋の直下から下全部。ところが刈り取ったんですけども、全部刈り取らないで一部を残しているんです、トラロープで囲って。4~5mの幅で10m位でしょうかね。ですから、何か、人為的に試験というか、確認というか、やっているのかなと思ひまして。一番最初の工事そのものは分かるんですけど、その辺が、私の記憶では、工事が終わったら、「元から有った土を、そこへ戻します」みたいな、看板に小さく書いてあったような気がするんですけど、確かな記憶じゃないので。今、お答えになれないと思ひますが、何を、どういう目的でというか、何をやっているのかな。一般的に河川敷の中の雑草を刈り取るという行為は、よほどそこで何かイベントでもやらない限りは、どこもやらないですよ。

行政委員

高水敷きは、やります。

都民委員

ですから、何かイベントとかそういうことをやらない限りは、河川敷の生えた草を刈り取るという事は、しないわけですよ。何をやっているのかなと、非常に疑問で、分からないのに色々憶測で、税金の無駄遣いだの何だのとの話は出来ないんでね。何か分かりますか？

行政委員

まず一点が、基本的には、現在の土砂で護岸を覆土するという、草を生やすと言う事はやっております。と言うのが一点と、新たに他からタネを蒔いたかという話は、やっておりません。

都民委員

（タネを）蒔いたんじゃないかと思うくらいに一面に見事な。今までそういうものが発芽しなかったのが、何かの環境の変化で発芽したのか分かりませんが、それをまた刈り取るというのがね。川の近所の方が刈り取ってくれた様な広さじゃないですから。何か機械を使って刈ったんだと思うんですけど。

行政委員

刈り取ったのは、ちょっと分かりません。

都民委員

わからない？

一部トラロープで囲って、残してある。下に何か障害物が有るような場所では無いんですけど。

行政委員

植物の育成というか、そこに有った、現地の戻した土に、植物が復元しているかどうかと言う事で囲っております。要は、現地にあった土を戻しましたので。

都民委員

いや、そうじゃなくて。全面的に土を戻して、一面に花が咲いたんですよ、見事に。そのうちのごく一部だけを残して、他を刈り取っているんですよ。だからそういう行為は、何をしているのかなと？

行政委員

だから、試験にどなたかが、20 平米位を取ってある事を僕も知っています。何かの理由で刈ったのと、そこだけ残したのと、誰かが判断してやったのか、何処に意図があったのか。(分からない)

都民委員

何か意図がないと、そういうことにはならないんじゃないかと。

行政委員

大変申し訳ないんですけど、新たにタネを蒔いたとか、そういう事はいっさいやっておりません。

都民委員

よく見るとその花は、そこだけじゃなくて、他の土手にもぼつんぼつんとは咲いているんですよ。

都民委員

あのね、何だろう、こういう紫色のね、外来種なんですかね。僕は、あの辺の浅川の植物を見ているんですけど、今は蔓草、葛ですか、アレチウリは部分的だけど、竹藪も殺す

程の勢いで今、蔓草が生えているんですね。それで、竹の上も茂っちゃうと、竹が枯れてきますね。まあ、僕は、竹も枯れた方が良くも思っているんで。

都民委員

何のために、逆にもしそうであれば、タネを蒔いていないと言う事であれば、何で刈り取ったのかを教えてください。

都民委員

橋の下は、橋の管理のために刈るんですよね。それ以外は、普通は管理者というか、樋門だとかね、そこが管理しているところ、それ以外は普通刈らないでしょうけど、あそこだけ刈ったんで。

行政委員

あその事実は、今は分からないのでまた後日ご報告します。

都民委員

それともう一点ですね、次のページの、これウエダと書いてカミダと読みますけど、「H22 上田護岸工事」とありますね。この写真の下の黒く塗った部分が今年度と言いますか、21年度に終わっていますけども、今回はその上（上流側）をやると言う事で。実は、ここは、土手が切れちゃっているんですね。土手の上の、厳密に言えば人が歩いたり、自転車が走ったりする部分が有りますけれど、それがちょうど、この黒い色の境目当たりで切れちゃっていて、土手が道路になって、車が通っています。そこが、歩道も無いし、自転車が通れなくて、非常に不便なんですけれど。私も、これ（流域連絡会）に参加した一つの理由は、もう少し河川を、自転車の通れるような、いわゆる親水という観点から土手を利用した遊歩道のネットワーク化というのはどうなのかなと言う願望がありまして。そう言う話は、これから日野市の、道路課だかどこかは分かりませんが、そう言うところと話をするなり、議員と話をするなりして、国土交通省京浜河川事務所の方に色々要望を出すとか何とかと言う事じゃないと、この場で造る、造らないと言う話にならないのは分かっているので。一応、そう言う話も受ける？

行政委員

ええ、ご要望が有れば。で、まあ、市（日野市）さんの方と確認しながら。

座長

都民委員さん、どうぞ。

都民委員

今の関連なんですけどね、ここの部分というのは、浅川で、一番川幅が狭い所なんですよ、堤防間が。かつ、公道が走っているために堤防の嵩上げが出来ないんですよ。地元の人たちも、危ないからと。二年前の 8 月の時は、(堤防の) すぐ下まで水が来たんですよ。夜中の一時、二時位に。時間は、見てなかったんですがね。地元の人たちも、それを見て、さらに言って、今、1 m くらいの仮嵩上げをやりましたね。

行政委員

はい、土嚢か何かで？

都民委員

いやいや、あれ、その工事を知らないんですか？それは、まずいな。

行政委員

すみません。土嚢を積んであるんですか？

都民委員

鉄板を入れてね、土嚢を入れてね、要するに、過去の高さよりも 1 m か 1.5 m 位、低いところを嵩上げしたんですよ、仮嵩上げ。その時に僕は、本工事は何時やるんですかと聞いたんですよ。そうしたら、本工事は、というのは都道が走っているんですね、何でもんな所に都道を造ったのか。だから、用地買収して、都道をどこかに移せば、堤防を上げられますけど、そうじゃないと。

都民委員

いや、私が言っているのは、そうじゃなくて。ここの黒く塗ってある部分がありますね。低水護岸は、下なんです。そして、低水護岸は、実際には水の中に入っていないから、その上を今、人が歩いているんですよ、時々散歩の人たちが。だから、そこを、土手からスロープで降りられるようにして、緩やかなね。それで、要はアンダーパスですよ、高幡橋を。それを上げれば、サイクリングの幅が出来るでしょうと、こういうことが有りましてね。それは、多摩川の日野橋の右岸を、去年か一昨年の完成位で、やっぱりサイクリングロードを造っているんですよ。ところが、あそこは、上も全然ロードが無いし、下は浅川との合流点で、その先は無いですから、自転車なんか走らない所にもものすごく長大なアンダーパスを造っているんですね、下まで降りて、わざわざ。だから、多摩川でそういうことをやられたのは、国土交通省京浜河川事務所の方でやられたんでしょうから。どこかの要望があったのか知りませんが、浅川のここの部分の方がよっぽど利用価値があるんですよ。それは今、ここでする事じゃないですけど。

行政委員

うちの方でサイクリング道路を造るわけでは無くて、基本的には、市町村の方から要望されて、自分たちが占用するので造らせてくださいと言うのであれば、それは許可します。

都民委員

そうすると、多摩川の日野橋の下と言う事は、あそこは日野市側ですから、日野市がそういう要望を出したと。あるいは、東京都が（出した）。

行政委員

普通のサイクリング道路であればそうですし、（東京都）かも知れないですし、ちょっと、場所を確認しないと分かりません。それとあと、我々の管理用通路として、水防時とか巡視の時に必要なものであれば、そういうものを造る可能性もあります。場所、場所によってまた違う可能性もあります。

都民委員

今回はこういう資料を頂いて、偶々、本年度は日野市だったという事で、参考になりますけども。

座長

はい、次、有りますか？

無いようですので、次の議事に移りたいと思います。（2）今後の活動予定について。お願い致します。

事務局

それでは、事務局の方からお話しさせていただきます。次第（会議次第）の2ページに御座いますように、先日、第1回目の時にご案内したんですけども、年4回と言う事で、事務局としては提案しておりました。もう既に2期目に入って御座いますので、4回では少ないのではないかと、それから、時間も、今日のように6時半から8時程度と言う事で、回数を増やせないだろうかと言う事で御座いましたので、事務局としても、今お手元に御座いますように、今もう既に22年8月第2回、8月19日と言う風を書いて御座いますけれども、それに今後10月の下旬、12月の中旬、2月の下旬と言う事で、一応1回増やしたいと言う事で、1回増やしています。一応、その中にフィールドワークというのを、今回（第2期）の第1回として書いて御座います。やはり、時期的なもの、12月は年末ですし、2月は、大変申し訳ないのですが、役所としても年度末に近いので、なかなか車を借りたり、色々有るものですから、できればフィールドワークを10月にやりたいと言う事で、まず、1番目に本年度の活動計画については、1回増やすという提案で御座います。

座長

前回、4回では少ないだろうと言う事で、1回増やすと言う事で、フィールドワークは行った方が良いというご意見が強かったと思いますので、こういう構成になると。

団体委員

出来ましたら、浅川本体を1回やって頂きたいなと思います。去年も一昨年も見えていて、本体に全然触れないわけです、小さい川ばかりで。本体をちょっと見て頂きたいと。

座長

このフィールドワークでですか？ご提案ですね。

はい、提案と言う事ですね。他に御座いますか？

浅川の本流と言うか、京浜さん管理の所を見た方が良いんじゃないのかという提案で御座います。

団体委員

今日、私、ここへ来る前に草刈りをやって、もう、汗びっしょりになって。

都民委員

逆にですね、私今回から始めたんで、今までのことは良く知らないんですけども、やはり、浅川の水が少ないとか、瀬枯れしちゃってるという事は、やっぱり源流の問題がかなり有ると思うんですよね。ですから、源流を、今どのくらい、私日野に住んでいるんですけど、日野でいくら何やったってまあ、浅川の水というのは、殆どが、上流に降った雨が溜まって、それが涵養されて出てくるわけですよ。それでやはり、上流部の実態を見て、今どんな事をやっているのか、あるいは何もやらずに、どんどんどん山が荒れて、どんどん水が減って来ているのか。それとも、少しでも山に木を植えたり、雨水を涵養する活動が、どの位進んでいるのか。進んでなければ、それを進める様な運動をするきっかけにする、フィールドワークをしたら良いと思うんです。

団体委員

源流の件ですけど、山の整備をして行かないといけないんですよ。我々のメンバーの中に、山登りの方がいらっしゃる。たとえばですけど、八王子には、お寺がたくさんありますよね。あの、塔婆と言うのを輸入しちゃっているんです、今ね。近隣の間伐材を使えば、色々出来るわけですね。そういうような所には、それに切り替えるように、我々も活動しているんです。

座長

と言う事で、本流、あるいは源流色々有りますけど、事務局の方で何か？

事務局

今、本年度の活動計画についてと言う事で、御協力が得られたのですが、次の議題でフィールドワークについて、皆様のご意見を再度聞きたいなと思っております。今は既に直轄河川のお話しですとか、上流側のこととか伺いました。ただ、上流側は、かなり山ですので、どんな風な見方をして行けば良いのかなど。それから、当然一級河川からはずれますので、私どもの所管エリアからはずれる部分も有りますから、どんなところをどんな風に見せるかと言う事を勉強しなければいけないなと思っております。他に、今言われた二点以外でもご意見が有れば、事務局としては、お聞きしたいなと考えます。

座長

いかがでしょうか？今、浅川の本流をしっかりと見るフィールドワーク。それから、源流域と言いか、八王子さんが管理するいろんな所になるかも知れませんが。そう言う事で、今二つのご提案が出ましたけれども、他ございますか？

団体委員

この後に、「八王子市水循環計画の概要について」と言うのが有るので、そのお話を聞いてから、ちょっと差し出がましいのですけれど、私の方で作ってきた流域図みたいなものと、源流の問題とか、色々な問題を抱えてきたんですけども、その後でお話しさせていただきたいと思います。

座長

それを聞いてから、フィールドワークをどうしようかと。一つの提案なんですけど、それでよろしいですかね。じゃあ、フィールドワークの場所をどうするのかというのは、少しペンディングにしておいて、第三番目の「八王子市水循環計画の概要について」と言う事で、行政委員さん、お願いします。

行政委員

お手元のコピーしていただいたA3のもの。川がかなり綺麗になった、川の水が少なくなったと言われているので、これを何とかして行こうよと、水の循環の考え方から、水の取り組みは必要と言う事で、八王子市は、水の循環計画を立てました。

(資料の) 19 ページの「水循環の現状と課題」と言う事で、降雨時の増水の様子と、(平常時には) 瀬切れが少し目立つようになった。過去の状況がはっきり分からないので、これ(資料写真)は南浅川ですけど、南浅川は、水瀬橋と言う橋も有るくらいで、昔から

瀬切れが普通だよと言う方も有れば、もう少しは（水が）有ったよと言う方がいたり、はっきり分からないですけど、現在瀬切れが見られている。そして、綺麗な水になったので、子供達でにぎわう。湧水の枯渇も、やはり、市街化に伴いまして少し目立っている。下水道も、単独処理場を持っています。八王子市の場合は、古くから、少しでも汚い水を流すのをやめようよと言う事で、早くから下水道に取り組んだ事で、（下水道管の）老朽化も増えてきたと言う事です。

（資料の）20 ページには、基本理念として、「人と水との良き環をつくり次世代へ水の恵みをつなげていこう」と言う基本理念の元に、健全な水循環のイメージをいろいろ書かせて頂いております。

次のページ、21 ページになりますけれども、そのためには、何をして行こうかと言うことで、基本方針と取り組みを考えているわけでございます。方針1と言う事で、「健全な水循環系再生の5つの行動の推進」ですが、水循環系の再生の取り組みには、この5つの行動が一番大事だねと言う事で、「雨水を浸透させる」、「綺麗な水を川に戻す」、「いきものの棲む水辺を育てる」、「水を上手に使う」、「水を治める」とまとめさせて頂いて、この5つの行動の推進の駆動力、推進力になる方針3（資料）、「身近な水辺の復活10年プロジェクト」と言う事でこの行動の推進を図って行こうと言うモデル事業を6つ考えました。これと併せて、他の自治体は、人工系はなかなか謳っていないんですけど、やはり、八王子市の場合、ちょうど水循環部と言う事で、（上）水道、下水道が一緒になりましたので、人工のライフラインの整備も併せて、この計画に含めているのが特徴になっています。

（資料）右側の22 ページには、「健全な水循環系再生の5つの行動の推進」と言う事で、「雨水を浸透させる」、これは、日野（市）さんもやっていますけれども、昨年8月に、子供ミーティングで、少しでも雨水浸透ますが付けられるようにと、子供さんからの提案を受けまして、10月から補助率をアップしました。今年は、強化地区のひとつ横川弁天池と言う湧水を持っている公園が有るんですけど、そこの涵養域について強化地区を設定して、市設置の浸透ますを設置して行こうと考えています。

「きれいな水を川に戻す」では、公共下水道は、概成しました。今、（下水道への）接続について積極的に取り組んでおります。

「いきものの棲む水辺を育てる」と言う事で、いきものに優しい水路づくりとか川づくり、また、東京都や国の直轄では、浅川橋の下流に魚が上りづらい箇所がありますので、（魚が）上れるような、少し上れるような改良をお願いしているところです。東京都さんには、中央高速道の下、ここも段差がありますので、なんとか改良が出来るようお願いをしているところです。

「水を上手に使う」は、主に親水ですね。子供達の水への環境学習を入れながら、水を上手に使うと言う事を含めまして、取り組みをして行こうと考えています。

最後に人工系が入っていますが、「水を治める」では、総合治水的なことも、取り組んで行こうと考えています。

(資料の) 次のページ、最後になりますけれども、このページには人工系が書いてありまして、24 ページの6つのモデル事業、例えば、真ん中の下に、〈八王子駅南口周辺水のまちプロジェクト〉～六本杉公園とその周辺整備～と言う事で、平成22年度から、六本杉公園と言う湧水公園があるので、少しでも湧水が再生、復活できるようにと取り組みを出、進めていく予定です。右の真ん中、〈川口川上流域谷戸と水路のいきものプロジェクト〉では、川口川の上流の谷戸を、湧水池と、その上流部には水田がありまして、ここをなんとかうまい湿地づくりと、どんな生物がいるのかと。8月13日には、住民の方も交えて生物調査をしたところです。そのようなことで、谷戸をうまく保全が出来ないかと言う事で、取り組みを少しずつ始めているところです。基本的には、(資料の) 真ん中に絵柄が有りまして、横川弁天池、片倉城址公園、六本杉公園、子安神社、8つの湧水が繋がるようにと言うようなことで、前に、多摩美の渡部先生の方からご提案があった。八王子市湧水エコミュージアムと言うのが有りまして、市街地の8つの湧水を繋げて、それをスパイラル状に広げてまちづくりをしていくと言う事で、この辺の湧水と、少し丘陵地の、川口川とか、石川東公園へ広げたところです。少しずつ夢を持ちながら、実現可能な計画を今進めているところです。

座長

はい、有り難うございました。

続きまして、団体委員さんの方から。

団体委員

お手元に配りました、流域の俯瞰図、それから浅川に流入している八王子・日野流域の一級河川と言う事でありましてけれども。流域の一級河川、これは浅川の、日野も含めてなんですけれど、15本の一級河川。これは、本川と、例えば湯殿川とそれについて兵衛川と言うのが有ります。それも流入いたしまして、これに書いて有るとおりなんですけれども。

(資料中の) 略号、これはよく分からない。その次、上下流の、上流端というのは、要するに、国土交通省と東京都が、管理されている区間の一番上流のことを、上流端と言っています。でも、その上流端で川が切れているわけでは無くて、それ以上高いところの源流までは、全部普通河川として、地元の自治体が管理と言う事になっているから、八王子さんがこの15本の河川の上流端、ものすごく急勾配なところを、ご自分の責任、分担として、どうにかしなければならぬものなんです、全然その話を、習ってきたことはございません。それともう一つ、このあいだ私、上流域は、全部関東山地が上流域になっておりますので、かなりの急勾配です。大きな俯瞰図を見て頂ければ分かりますように、下流部の合流点からずっと上がってきて、中の橋と言うのがございます。ここが、所謂上流端として、東京都と国が、ここまでは面倒見ましたよ。それから上は、普通河川ですから、全部、地元自治体の管理している区間ですと言う事です。ですから、15本有るこの管理区間と

というのは、すごく大きな事になると思うので、多分、八王子市さん一市だけでとても面倒を見る事が出来ないと思うのですが、それより何より、上流部に行ったとき、上流の方は殆ど杉林、50年計画で農水省の方で、全国一斉に杉を植えたら、全国一斉ですから、いろんな山で杉を植え替えて、それで、50年たってそれが売れば、左うちわだよと言うような謳い文句でやってきたんですけども、その間にどんどんいろんな材木が外地から入ってきて、とてもそんな状況では、無くなってきています。ですからそれは、八王子市さんの中でも関東山地の上の方に行くと、本当に、杉山、杉山、杉山。それで、そこを管理すべき人たちはどうなっているかと言うと、地元の方に聞いてみたら、若い者はみんな下へ行っちゃって、僕たちは残っているけれども、管理されるような状態では無いと。それで、「じゃあ、国が」？と聞いたら、国も管理してくれない。「そうしたら、東京都は」？（と聞いたら）、東京都もそんなことは、手を出さない。「じゃあ、地元の自治体は」？と聞いても、お金が無くて、そんなことできっこない。そうしてご自分は、体力の限界で、そんなことは出来ない。誰も責任を持たない杉林が、八王子の山奥に広がっております。それは、ものすごくおっかないことです。杉そのものの葉っぱが、なかなか土に戻りませんので、大きな雨が降ったときは、みんな一斉に下に、土と一緒に流れて行ってしまいます。そんな状況で、今にも崩れそうな杉山もかなり見受けられます。でも、誰も責任を取りません。じゃあ、どうすれば良いかと思って、いろいろ考えたんですが、出来るだけ、杉林の樹種を、広葉樹林に早く変えられる方法はないかな、と今それで、一生懸命考えているところ何ですけれども。東京都でやっている、企業の森という制度がございます。そこに聞いてみたんですけども、それは、花粉対策で、花粉を飛ばさないためにやっていると言う事で、こういうところに踏み込んで、全国ネットでやっているのですけども、一定の場所にお金を投ずると言うことは出来ませんと言う事で、やっぱり、私たち市民、あと上流、下流の現地を見て頂くのは、東京都の管理になりますよね。みんなで考えなければならぬ事だと思っています。それについて、上流域に立って見ないとそれが分かりませんので、このところ何回かに分けて、上流の一番高いところは、陣馬山じゃなくて、醍醐丸とか、高岩と言われている、醍醐川の上流域が、陣馬山より10m高いです。その陣馬山よりまっすぐ行ったところに、醍醐川というのが有るんですけども、そこまでみんなと何台かの車で行って、いろんな状況を見てきていますが、殆どのお家が空っぽです。お猿さんにいっぱい会いました。そんな地域になっています。でも、そこは、まごうことなく、八王子市です。それともう一つ、この急流河川だと言う以外に、こういういっぱい支川が、日野（市）に入ってくる前ですね、八王子市内だけで、二十何キロ位の間に13本の支川が全部入り込んでいます。そうして一斉に日野（市）に来るわけです。ですからこれは、えらい話で、今、当所（南西建）の方で護岸工事をなさっていますけども、去年、一昨年の降雨の時でも、高幡橋が、1100m³/s 流すと計画で造られているものが、あの日は1374m³/s か1347m³/s 流れました。もう既に越えています。それでもあの時は、上流域全地点に雨が掛かっていた訳じゃ無いです。今みたいに想定外のすごい雨が、もし、この上流域全部にか

かってきた場合は、日野（市）が、上流から来た水が、流せるかどうかと言う状況です。多分、堤防が壊れるより先に越流しちゃう、そんなような事が考えられます。

都民委員

座長。

済みません、途中で。少し、まとめて頂きたいと思います。

団体委員

今のような状況です。

都民委員

それで、フィールドワークはどうしたいと、その結論を教えてください。

団体委員

さっき仰られたように、本川を見に行きましょと仰ってるんで、どうぞその上流域の、一番突端を皆さんに理解して頂きたいと思っています。

座長

と言う事で、良いですか？と言う事で、今、ご提案がありまして、今日の資料が決まっていた、水循環と、団体委員さんの資料と、事務局の方のお話しの中で、位置的には本流域と上流と二つ出て、フィールドワーク何処へ行きましょかと言う事で、本流が良いと思う人、ざっくばらんに、どの位います？

座長

一応私の質問は、本流域を見たい方はどの位いますか、と言う質問でございまして、見たいと思う方は、手を挙げて頂きたい。1, 2, 3名。

今のいろんなお話しの中で、八王子の部分に関わるような源流域とか、水循環に関係するようなところとかを見るべきとか、それがどっちかと。じゃあ、源流域。

団体委員

関心がなければ、べつにどっちでも。

座長

源流域それがどっちかと。じゃあ、源流域、今水循環に関係するようなお話の所を見たいと言う方。

都民委員

工事現場のところには、行かないのですか？工事現場のと場所言うか。計画が上がっている場所が有るじゃないですか。

座長

護岸工事？それが三つ目ですね。計画の護岸工事の所を行きましようと言うのが、三つ目ですね。

団体委員

どっちですかと聞かれたんですけど、全部見たいわけです。

上流域を見たいのはもちろんだし、それから今仰られた工事現場も見たいし。湯殿川があんなにまっすぐにしていいのだろうか、私は、ずっと、正直疑問なんですね。そういう事をいろいろ考えた上で、フィールドワークを考えた方がいいので、今ここで何をと言われたら、とても。私は、さっき手を挙げましたけど、疑問です。

座長

みんな見たい。

だいたい半日ぐらいだと思います。

午後、お昼過ぎに集まって、どうでしょう、3時間ぐらいでしょうか。

団体委員

1日とることはできないんですか？

座長

時間的に来れる方と来れない方がいたり。お昼がはいると難しくなってくる様なこともあったり、そのあと検討会というか反省会というか、そういうのをやりますから、そういう中であまり車の中に乗っているだけでもね。

他に？

そういう中で、下流部、一つ、いわゆる本川ですね。浅川の本川から見ていただいて、本川から源流域まで、流れとして見たいというのも一つ入れて、それから今、河川改修の予定地を入れるというのも入れて、もう一度、再度、皆さんの希望を聞きますので。

まず、本流域？

都民委員

ちょっと、欲張って申し訳ないんですけど。湧水、それも一箇所ぐらい、トータルとして眺めるだけでも。

座長

それも水循環と言う事で、ご理解下さい。

団体委員

本流域の中に工事現場は、いっしょにドッキングできない？

座長

そういうことはできるでしょうね。

都民委員

位置的に難しいですよ。

座長

工事を見るかどうかはわかりません。この場所です、と言う話になるかも知れません。じゃあ、そういう事での本川、どうですか？

はい、1名、2名。3名。

水循環に関わる湧水を見るとか、中身を見るといふか。それがいらっしゃいます？

団体委員

ちょっとね、私、湧水を見てきました。

座長

いるかないかでやって下さい。いますか？

はい、いません。

じゃあ、源流域、1、2、3、4、5、6、7、7名。

それと、じゃあ、通しで見るといふ方いらっしゃいますか？2名

都民委員

通しでと言うのは、どんな感じで？流域によって？

座長

だから、大急ぎで回るってやつですよ。バスにずっと乗っているかも知れません。

そういうことで源流域が多いんですけど、事務局さん、どう判断しましょうか。一任させて頂けますか、そういう希望を聞いて？

団体委員

源流域は、バスは無理。バスは無理です、細い道になりますから。できるだけ、7、8人が乗れるようなワゴンが良いです。

都民委員

谷地川とかね、湯殿川をやれば、工事域も源流域も楽しめる。

団体委員

あの、この間醍醐川へ行ったんですけど、入れませんよ、大きい車は。

座長

そうですね。

団体委員

歩いた方が、良いです。

座長

と言う事は、時間的に無理かも知れないですね。

都民委員

事務局に一任しましょう。

座長

良いですか。

今、希望を聞きましたので、あとは事務局に。

団体委員

我々の任期は2ヶ年ですから、2回と言うことで、今回はこれ、2回目はこれってことで、事務局に一任したらどうでしょうか。

座長

今回の今年度のところでは1回しか行きませんから、今年はここ行って、次の年、後期、2期後期の来年度はどこへ行くかっていう、そういう提案ですか？

団体委員

そうすれば、ある程度満足できるというね。

座長

そういうことで、事務局で整理をさせていただきます。

日にちはですね、提案が事務局の方からありましてですね、10月の25日、あるいは26日。

基本的には東京都さんのバスをお借りしてということで、借りられるということを前提で考えている日にちです。

25日がだめだ、と言う方いらっしゃいますか？いらっしゃったら、手を挙げてください。お1人だけ。10月の25日、月曜日です。駄目な方、お1人ですね。

26日が駄目な方？(1人挙手)

すいません、じゃあ、どちらにしましょう？

座長

今日決めた方が、皆さん、予定が良いんですよね、日にちだけはね？

じゃあ、どちらが良いですか、事務局の方では？

事務局

26日で仮設定ということで、よろしいですか。

座長

おそらく、食事して1時ぐらいに集合とかになる。そんなかんじ。

事務局

こちらにですね、1時に集合して頂く様になると思います。

座長

26日の1時に、南西建の駐車場に集合という形の予定で決めるという形で。場所は、今日のお話を伺ってと言う事で、よろしく申し上げます。

それで、ちょっとご免なさい、8時になったんですけども。

今日の会議次第の中で、3枚目に、これ、私、事前に事務局さんと打ち合わせをお願いをしてですね、これに入っているんですよね？

ご覧の通り、やっぱり1時間半、これだけの人数を、これだけの内容をやるのは、本当に大変です。

私、先般の皆さんのご意見の中とか、私の方からも出てたと思いますけど、他の方からも出た中で、分科会的なね、これは強制でもなんでもない、自発的に、それであとからここに入れることも可能みたいなやわらかい会を、検討する会を作って貰えば、もうちょっとね、河川改修のさっきの話なんか、事前にそこで少し打ち合わせをしておいて頂くとか、

出来るんだろうなと思っていて。

ここに、まずね、先行の所がいろいろある中で、どういう所にどういがあるのか調べておいて下さいという中で、じつは14ある流域連絡会の中で3つなんですね、分科会があるのは。

今日、決めることはないです。

今度のフィールドワークの時、その後の会合のなんかでもね、こういう会を起したらどうか、とういお話しができるとありがたいなと、そこで本当にもっとねテーブルをもっと近づけて、打ち合わせをいろいろ話しが出て、こちらの部会で報告を頂くなり、提言を頂くなりと言う事が出来れば、有り難いなと思っております。

私の方はですね、他にですね、これは、私の(提案)、まあ同じようなものなんですけど、ずばり、河川改修部会なんてのもあっても良いかも知れないし、総合治水検討部会なんてのもあるし。そういうことであれば、鶴見川に行こうかなんて話しも実はあったんです。今日は、源流とか、あっちになっちゃったんですけど。東京都さんの方は、鶴見川を一緒に行ってもいいね、バスを出してね、なんて言う話しもある。そういうことで、分科会ができれば、そういう話しもできますし。あとは、河川の自然系のそこにもありますけど、こういうのは当然あるだろうし。それから快適な水環境をね、さっきね遊歩道の話しとか、自転車の切れている所をなんとか繋ごうとか、快適な水辺環境という、団体委員さんもよく、桜とかお花とか、そう言う分科会があってもいいしと言う事だね。それで全部作る必要はない。どれかから、何か集まって、そう言うものが起きれば、もっと、1時間半とかに囚われないで、本当にやわらかい会で後から入ってもいいし、また先行してこの部会ができて、次にまた何かができるというようなことになって行くと、もうちょっとみんなのお話が、屈託無くできるかなということを思っておりますので、次のフィールドワークの後の検討会というか、反省会の中でお話をもう一度させて頂きますので、ちょっと考えておいて頂けると、有り難いと言う事を、一つ最後に、提案させて頂きたいと思います。

団体委員

鶴見川の話がでたので。実は私、横浜でマリナをやっているんです。ですから、鶴見川を見ながら、うちの船に乗って貰って、それは、親睦を兼ねてね。

座長

と言う事で、次回が開催が(10月)26日の1時に、フィールドワークということで、終わります。では、閉会の辞を、事務局さんよろしくお願い致します。

団体委員

それから、すいません。

本当は全体の話しではないかもしれませんが、この間、水循環室の方から、北野の処

理場の閉鎖の件についてお話しを頂いているので、下流部の水量と、それをどういう風に確保して頂けるのかと言うお話しを、決めるはずだったんですけど、とっても時間が懸かって、そこまで行けませんでした。この話は、市民と行政とが一緒になった部会みたいなもので、やって頂けますでしょうか？

座長

北野の浄水場を閉鎖するという方向が出て、水量の問題、前からね、いろいろ議論があったところ。それは、そういう機会があれば、そういう事が用意できますか、と言う（ご質問です）？

行政委員

それは(話し合いは)いま未定ですね。

座長

じゃあ、とりあえず事務局と八王子さんとでご検討をさせていただきます。

3 閉会

事務局

出たり入ったりですいません。19:30に多摩南部で大雨洪水警報が出ております。(こちらは)水防本部の事務局にもなっております。なお、八王子で土砂災害の警戒情報も出ておりますので、ご注意ください。

これにて、終了致しますので、本日は誠に有り難うございました。